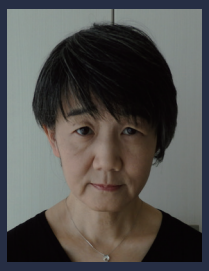


森田ひろみ Hiromi MORITA

准教授 Associate Professor

博士 (心理学) Ph.D.

Keywords: 人間情報学、認知科学、実験心理学、知覚、注意、手続き記憶

Contact: morita@slis.tsukuba.ac.jp

Web: www.slis.tsukuba.ac.jp/~morita.hiromi.gm/index.html

Graduate School of Library, Information and Media Studies

筑波大学 University of Tsukuba

研究概要

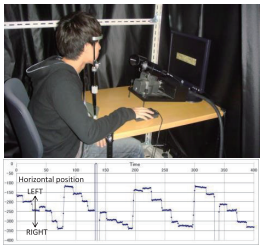
現代の情報機器を操作する人間の認知能力や認知特性を調べています．例えば，私たちはスマートフォンの小さな画面で，大きな画像や長い文章をスクロールしながら情報収集することができます．また，友達とおしゃべりしながらタッチパネルで素早くアイコンをタッチして操作を進めます．その一方で，機器の操作の中で，何度も同じ“うっかりミス”をしてしまったりしませんか？

私たちの研究室では，身の回りの情報機器の利用に関する疑問をもとに，その状況を心理実験に落とし込んでデータを取得し，そのデータに基づきユーザビリティについて認知心理学的視点から検討します．そしてその結果からさらに人間の視覚，記憶，運動などに関わる脳の情報処理特性について考察します．

このようなアプローチで人間の情報処理や情報機器のユーザビリティを研究しています．

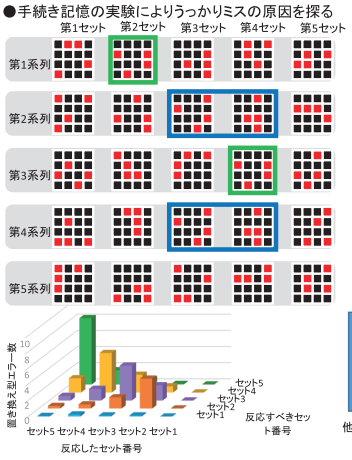
www.slis.tsukuba.ac.jp

●スクロール表示特有の読み方を眼球運動から探る

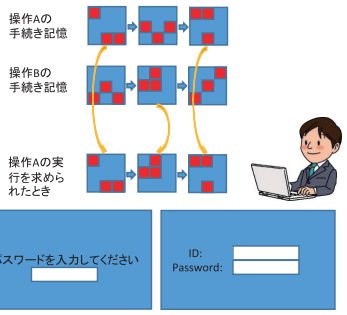


携帯型端末や電子書籍の普及に伴い、スクロール表示の利用機会は急激に増えています。本研究室ではスクロール表示の読みに特有の眼の動きを調べ、そこからスクロール表示の読み特性を明らかにし，効率良い表示方法を提案することを目指しています。

●手続き記憶の実験によりうっかりミスの原因を探る



複雑な情報機器の操作も，多くの場合タッチパネルの操作の連続で行なわれます．慣れた操作は無意識に進めていることもある一方で，いつも同じミスをしてしまうことも．間違えずに素早い操作を可能にするにはどのような方式が良いのでしょうか？ 心理実験を行い，検討しています．



他のシステムのパスワードを誤って入力してしまう失敗が多い条件は？

論文

1) 藤井佑実子・森田昌彦・森田ひろみ（2017.10） 刺激の位置を含む複数属性と反応のマッピング学習．Vision．29(4)，pp. 129-144.

2) 森田ひろみ・村松陽太郎（2017.4）運動系列実行時のチャンク選択手がかりの検討：連続ボタン押し課題におけるセット置き換え型エラーの分析から．情報処理学会論文誌 , 58(4), pp. 908-918.

3) Ishizaki, T., Morita, H., Morita, M.（2015.3）Feature Integration in the Mapping of Multi-Attribute Visual Stimuli to Responses. Scientific Reports, 5, 9056, [doi:10.1038/srep09056]

4) 森田ひろみ（2014.3） ウェブページ観察時の注意走査パターン．図書館情報メディア研究，11(2)，61-71.

5) 石井亮登・森田ひろみ（2013.6） 縦スクロール表示された文章の快適な読み速度と眼球運動．情報処理学会論文誌，54(6)，pp. 1784-1793.

社会貢献活動

現代の情報機器のユーザビリティについて実験心理学的アプローチにより調べ，改良の可能性を検討しています．例えばスクロール表示される文章をより速く読みより良く理解するためにはどのような読み方が良いのかといった問題です．タッチパネルをいつも同様の手順で操作することを繰り返すとどのような手続き記憶が形成されるのか，人間の知覚特性を生かしたサインやアイコンのデザインはどのようなものか，聴覚障害者のための要約筆記の読みやすい表示条件は，などを研究し，成果を学会で発表しています．

メッセージ

博士前期課程の 2 年間で 2 個の心理実験をして修士論文としてまとめていきます．また，2 年間に 1 回以上の学会発表も行います．したがって，これまでに心理実験を行ったことが無い学生には困難があると思いますが，興味とやる気があれば何とかなります．博士後期課程に進んで研究を続ける方を優先します．

関連情報サイト

http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~morita.hiromi.gm/index.html